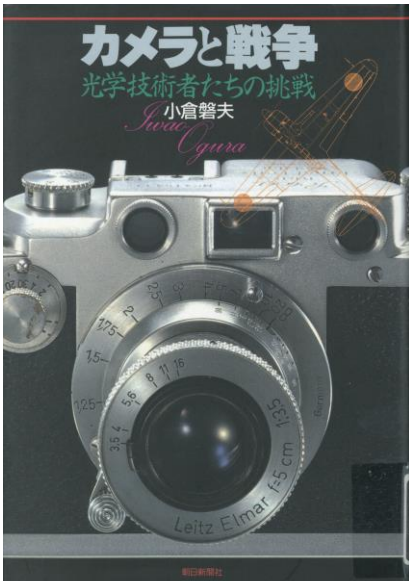


日本カメラ博物館 JCI ライブラリー
学芸員 宮崎真二

おぐらいわお
小倉磐夫 (1930-2000) は、東京大学理学部物理学科卒業後、電機・光学機器メーカーの研究員を経て東京大学生産技術研究所、千葉大学工学部画像工学科などで教授を歴任したほか、長年にわたり JCI の技術顧問をつとめました。学生時代に小穴純教授の研究室に所属していたこともあり、連載開始時から小穴が評価を担当していた『アサヒカメラ』のカメラテストレポートコーナー「ニューフェース診断室」に、1970年6月号から約30年にわたって携わりました。



『カメラと戦争』

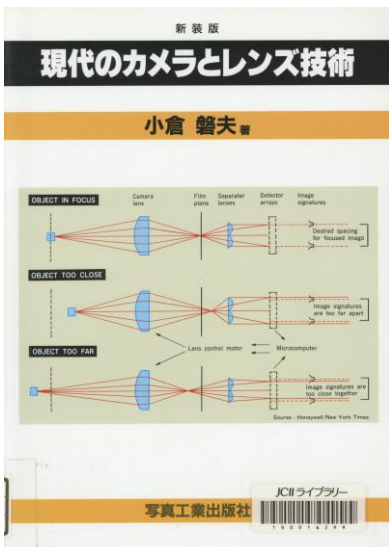
『アサヒカメラ』では、1989年7月号から2000年9月号まで128回にわたり「Dr.オグラの写進化論」も執筆しました。同連載は朝日新聞社から1994年に『カメラと戦争 光学技術者たちの挑戦』、2001年に『国産カメラ開発物語 カメラ大国を築いた技術者たち』として単行本化されています。前者は「カメラと戦争」として13編、「戦後カメラ史余話」として8編、「カメラを育てた人たち」として11編の全32編です。後者は前者の姉妹編として企画され、カメラ・光学機器にまつわる技術者や経営者などの人物を主題としたエピソード35編で構成されています。

『写真工業』では、1975年2月号から1989年9月号まで145回にわたり「カメラの性能と評価」を執筆しました。

同連載はカメラ・レンズの内面反射、レンズの画質に関する要素など、多岐にわたった技術的内容を取り上げています。特に連載当時はカメラのオートフォーカス (AF) 機構の実用化が達成され、さらなる発展に向かっていった時期だったこともあって、次々と誕生した AF 方式の動作原理をはじめとした焦点調節の解説に重点が置かれました。

この連載も1982年に写真工業出版社から『現代のカメラとレンズ技術』として単行本化されました。同書は後年の号で連載されたミノルタ・ハネウェル特許裁判についての解説記事などを加え、1995年に新装版として再発行されました。

これらは、月刊誌の連載という限られた紙幅のなかで、応用光学の第一人者として高度な技術的内容をできるだけわかりやすく解説しています。加えて、カメラ、光学機器にまつわる人物や出来事について関係者の証言を交えながら多面的に記述し、知られざるエピソードとして読者に紹介した内容からは、小倉の専攻分野に止まらない幅広い知見と洞察力の高さが見えてきます。



『現代のカメラとレンズ技術』(新装版)